



人吉医療センター助産師

ちはる

矢立 智春 さん

母親の影響で助産師の道に進み、15年目。2008年AEA認定アロマテラピードバイザーを取得。2児の母でもあり現在は仕事と子育ての傍ら、より専門的なアロマセラピストを目指し勉強中。

JCHO 人吉医療センター

前身は明治11年開設の公立人吉病院で130年を超える歴史を持ち、2013年に本館棟新築、今年4月に名称を変更。標榜診療科が26にも上る総合病院。所在地／人吉市老神町35



(右上)病院の多目的スペースでは、アロマ教室も定期的に開催(右下)好きなナース服を身にまつった同僚たちと共に。病院の自由闊達な雰囲気が伝わる(左)陣痛から出産までを見守るLDR(陣痛分娩室)。ここにアロマの力を用いて、母親の緊張をほぐす

ア・ロ・マ の チ・カ・ラ

enjoy aroma life

香りでお手伝い アロマライフ

～ VOL.8 ～

出産の喜びは、
子どもを育てる力へと
つながっていくのです。

「出産を迎える緊張している妊婦さんは足浴を。その後は洗面器にお湯を張ってアロマオイルを垂らし、部屋にいい香りが漂うようにします。先が見えなくて一番きつい陣痛の時に、少しでも力になりたい。そして振り返った時に、『いいお産だった』と思つてもらえたらいいですね」。そんな思いから出産の現場でアロマテラピーを取り入れている矢立さんは、自身も2度の出産経験を持つ先輩ママだ。勤務する病院では他にも分娩にアロマを取り入れている同僚がいたこともあり、産科病棟全体で導入していきたいという思いが芽生えたが、アドバイザーの資格だけではなかなか実践が難しく、自分の知識不足に悩んでいたと

いう。「そんな時に通いやすい新しいスクールができたことを知り、より専門的なアロマセラピストを目指そうと決心。同じ病院で看護師として働く夫も、『応援するよ』とすぐに言つてくれました」。

現在は平日は取れる休みを利用して、人吉市から熊本市のスクールまで往復約3時間をかけてバスで通学している。「軽い気持ちは決めたことではないけれど、始めてみると難しい化学式も勉強しなきゃいけなくて、アロマの奥深さに改めてびっくりしています。でも授業は楽しいので、1日があつという間です」と矢立さん。来年春の合格率3割という試験に向けて解剖生理学や衛生学、そしてコンサルテー

ション実習など、実際のお産や医療の場で生かすためにさらなる知識を習得中だ。しかし心身を休めたいはずの休日に、2人の子どもたちを送り出してから遠方での勉強。それは生半可な気持ちでは続けられないはずだが、そのモチベーションはどこから来るのだろうか? 「赤ちゃんが心配。出産が怖い」とママが涙したり、お産が思うように進まなかつたりと、現場では毎日いろんな事が起りますが、ママたちはみんな本当に頑張っています。出産の喜びはこれから生きていくための大きな力になるもの。それを信じて妊娠中から産後まで、たくさんのママたちの力に少しでもなるよう頑張るので(笑)」。